

令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

秋田県 大仙市

自治体名：秋田県大仙市

担当課名：教育委員会事務局教育指導課

電話番号：0187-63-1111

基本情報

面積	866.79 km ²
人口	約72,500人
公立中学校数	10校
公立中学校生徒数	1550人
部活動数 (文化部活動のみ)	21部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

1. 機会格差の拡大 (学校規模差に起因する構造的課題)

① 種目選択機会の格差

最大規模校では7種類の文化部活動から選択可能である一方、最小規模校では吹奏楽部だけの設置にとどまっている。

このため、生徒の興味・関心に応じた活動選択の機会に学校間で顕著な差が生じている。

② 活動内容・表現機会の格差

吹奏楽部では、最大規模校の部員数が48名であるのに対し、最小規模校では3名にとどまる。

その結果、

- ・ 演奏可能な楽曲の幅
- ・ 大会・演奏会への参加区分
- ・ 編成の多様性や異学年交流の機会などに大きな差異が生じている。

2. 地域受入れ体制の未整備 (責任・運営面の制度課題)

少子高齢化の進行に伴い、公民館等で活動する文化団体の中には、中学生の受入れに前向きな団体も存在する。

しかしながら、

- ・ 事故発生時の責任の所在が不明確
- ・ 生徒指導への対応が困難
- ・ 安全管理体制の構築への不安

といった課題が指摘されており、受入れ体制の制度設計が十分とは言えない状況である。

このため、地域側の意欲があっても実際の活動展開には至っていない。

3. 学校経営との密接性 (文化部特有の構造的課題)

特に吹奏楽部については、

- ・ 学校行事や対外的発信における象徴的役割
- ・ 学校の一体感形成への寄与
- ・ 日常的な校内活動との結びつきなど、学校経営との関係が極めて強い。

そのため、単純な組織移管では整理が困難であり、「活動の場の移行」と「学校文化との関係整理」を同時に検討する必要があるという特有の構造課題が存在する。

4. 移行プロセス上の心理的・運用的課題

① 指導の一貫性の問題

休日のみ地域指導者が指導する体制とした場合、平日の教員指導との間で音楽性や方針の調整が必要となり、精神的・運用的負担が増大することが懸念されている。

② 心理的ハードル

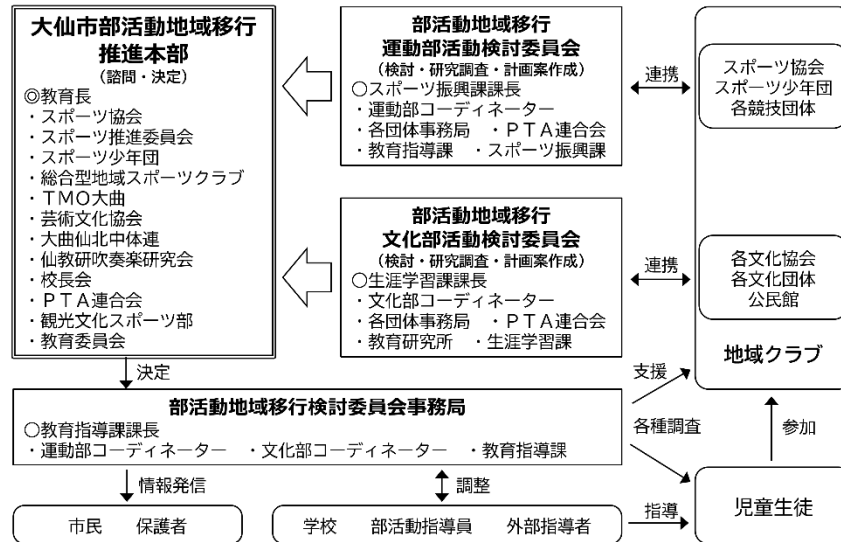
学校関係者の間では、「学校から切り離すことへの抵抗感」が根強く、制度面の整理だけでなく意識面の転換も必要である。

2.実証内容と成果



運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育指導課・生涯学習課）

- ・運営方針、運営計画の策定と周知
- ・情報収集、各種団体との関係構築
- ・各種団体・学校への活動支援（部活動指導員の配置・大会派遣費の補助等）

◎首長部局（スポーツ振興課）

- ・検討委員会の主催

◎コーディネーター

- ・各種団体・学校の状況やニーズの把握
- ・指導者や受け入れ団体の発掘とマッチング

年間の事業スケジュール

令和7年4月

第1回 部活動地域移行検討委員会

令和7年5月

部活動実態調査（小・中学校）

第1回 部活動地域移行推進本部会議

令和7年6月

第2回 部活動地域移行検討委員会

令和7年8月

中学生が参加できる活動一覧に関する調査①

兼職兼業アンケート（中学校教職員）

令和7年9月

第3回 部活動地域移行検討委員会

令和7年10月

第2回 部活動地域移行推進本部会議

令和7年11月

中学生が参加できる活動一覧に関する調査②

地域クラブ活動に関するニーズ調査（小学生）

令和8年2月

第4回 部活動地域移行検討委員会

第3回 部活動地域移行推進本部会議

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	3 クラブ（3 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	2 クラブ	
全体の指導者数	16 人	全体の運営スタッフ数	92 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
大仙市消防団音楽隊	地域クラブ	吹奏楽	1回	9:00～ 11:30	1年：3名 2年：2名 3年：9名	10月	3人	50人	なし	学校祭での合同演奏
ふれあいウィンドオーケストラダイナミクス	地域クラブ	吹奏楽	平日 1回 休日 1回	10:00～ 11:00	1年：9名 2年：6名 3年：5名	9・10月	2人	27人	なし	市のイベントでの合同演奏
大仙市混声合唱団ほか	地域クラブ	合唱	平日 1回 休日 2回	13:30～ 15:30	1年：2名 2年：6名 3年：5名	11・12月	5人	10人	なし	市のイベントでの合同合唱
大仙市青少年オーケストラ	地域クラブ	管弦楽	月 1回	2時間	2名	通年	3人	1人	1,000円	定期演奏会の開催
仙北太鼓	地域クラブ	和太鼓	毎週日曜日	17:00～ 21:00	3名	通年	3人	4人	2,500円	各種コンクールやイベント

③その他、体験会やイベント等の開催実績

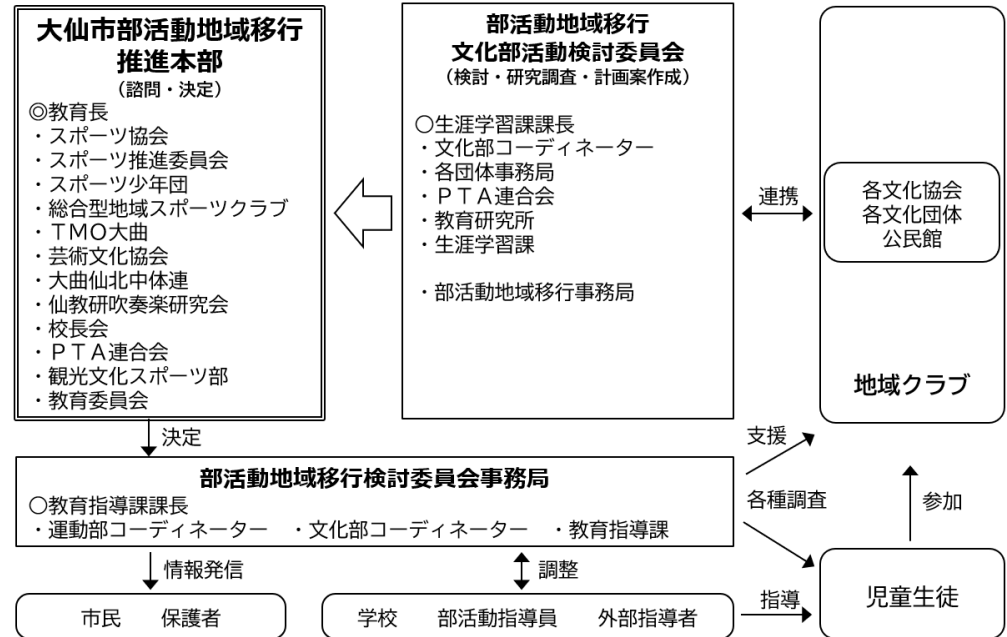
- 大仙市音楽祭2025「大いなる秋田大演奏会」
- 史跡の里の秋まつり（仙北公民館まつり）

主な取組例

●大仙市消防団音楽隊 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	大仙市消防団音楽隊
期間と日数	1月～2月 合同での活動は1回
指導者の主な属性	大仙市消防団
活動場所	大綱交流館
主な移動手段	スクールバス・保護者自家用車
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	学校部活動としての参加となるため、地域クラブとしての保険加入はなし。

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 責任者(1名)
役割:「隊長」として全体を統括する。
- 音楽監督(1名)
役割:演奏の全体指導を行う。
- 指導者(今回は3名)
役割:吹奏楽部員への音楽指導と不足しているパート演奏での賛助。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○コーディネーターの配置

- 学校部活動の実態とニーズの調査
- 学校施設の使用状況調査
- 地域クラブ活動を実施する上での課題把握のための訪問
- 有識者会議「大仙市の音楽活動の在り方を考える会」の開催
- 兼職兼業アンケート結果を踏まえた教職員への聞き取り
- 部活動指導員を含む指導員や受け入れ可能な団体の発掘とマッチング

取組の成果

- 2つの吹奏楽部に部活動指導員（地域コミュニティスクール運営委員を含む）を配置し、2名増員となった。
- 中学生を受け入れ可能な文化芸術団体が20に増えた。
- 有識者との意見交換を通して、中高連携や合同活動の可能性が示された。
- 小・中・高・一般団体合同でのマーチングバンド活動が検討されている。
- 学校施設の利用状況や兼職兼業の調査結果は、来年度以降の「認定地域クラブ活動」制度の設計に生かすことができる。

今後の取組における課題

- 改革推進期間が3年目を迎え、一定の人材確保は進んだ一方、新規人材の発掘については頭打ちの感がある。
- 部活動指導員については、教職員のリリーフ的な意味合いが強いことや、採用にあたって労基法等がネックとなることがある。
- 現在は運営主体として教育委員会内の事務局が業務を担っているが、来年度以降は認定制度に関わる業務負担が増えることが想定される。

課題への対応方針

- ✓ 推進体制（協議会・運営組織・事務局）の見直し
- ✓ 「認定地域クラブ活動」制度の構築
- ✓ 中学生受け入れ可能団体の「認定地域クラブ活動」への登録促進



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○文化庁活動における一般団体・高校との交流および合同実践の実施

- ・「大いなる秋田大演奏会」での合同合唱
- ・「史跡の里の秋まつり」での合同演奏
- ・学校文化祭での合同演奏



取組の成果

- 高校生との合同練習を通して、生徒は高度な技能や豊かな表現力に触れることができ、意欲や技術の向上につながった。
- 保護者からも好意的な評価が得られ、多くの保護者が来場するなど、地域全体で生徒の活動を支える機運の醸成が見られた。



今後の取組における課題

- 学校部活動としての参加であったため、引率等を教職員が担う体制となっており、地域主体への移行が十分ではない。
- 移動手段を保護者の自家用車に依存しており、移動支援体制の構築が課題である。
- 指導者側において、生徒一人一人の理解や長期的育成の視点が十分とはいえない面がある。
- 合同練習の回数や時間が限られており、十分なコミュニケーションや協働体制の構築に課題がある。
- 合唱においては、年齢差による声質の違いもあり、世代間合同活動の在り方について工夫が必要である。

課題への対応方針

- ✓ 学校部活動としての参加形態から、段階的に地域クラブ主体での参加体制へ移行する仕組みを整備する。
- ✓ コーディネーターが学校・地域クラブ双方への助言・調整を行い、持続可能な運営体制を構築する。
- ✓ 協議会で移動手段に係る支援の在り方を整理し、保護者負担の軽減を図る。
- ✓ 世代間合同活動の成果と課題を整理し、より効果的な交流方法を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

○スポーツ・文化活動に関するアンケート調査の実施

- 子どもたちの参加希望活動を把握し、中学生が多様な活動に参加できる環境整備の基礎資料とするため、アンケート調査を実施した。
- 【調査対象】市内小学校第4・5・6学年児童
- 【調査期間】令和7年11月20日～12月19日
- 【調査方法】Webアンケートフォームによる回答
- 【調査回答数】1,370人（回答率90.4%）

中学生になってからの活動意向



取組の成果

- ニーズ調査の結果、「現在の活動を続けたい」「違うことをしたい」「新たに始めたい」を合わせると、全体の約74%（1011人）が中学校での活動に意欲的を示していることが明らかになった。
- 活動の理由として、「好き・楽しい」「上手になりたい」といった内発的動機が多数を占めており、「家族からの勧め」などの外的要因を大きく上回った。
- 中学での活動への意欲は高いものの、人間関係や能力、学業との両立に加え、「やりたい部活動がないかもしれない」といった環境面に対する不安を抱える児童も一定数存在することが把握できた。

今後の取組における課題

- 多様なニーズに対応できる地域クラブ数が十分とはいえず、受け皿の拡充が必要である。
- 小学校段階で参加希望の多い活動や、継続希望があるにもかかわらず受け皿が不足している活動について、優先的に環境整備を進める必要がある。

課題への対応方針

- ✓ ニーズ調査結果を基に、コーディネーターを中心として新規地域クラブの発掘・育成を推進する。
- ✓ 中学校入学前から活動内容や参加方法を周知し、不安軽減に向けた情報提供体制を整える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実③

取組事項

- 「中学生が参加できる活動一覧」の作成および周知
- 生徒一人一人が興味・関心に応じて主体的に活動を選択できる環境を整備するため、市内の中学生を受け入れ可能な地域クラブの調査を行った。
- 活動場所や活動日等を一覧表として整理し、市内小・中学校へ配布するとともに、運動施設や公民館等に設置した。
- 参加費や大会参加状況、連絡先等の詳細情報は市ホームページで公開した。

取組の成果

9	吹奏楽	仙北吹奏楽団	仙北ふれあい文化センター	毎週 火・水
10	吹奏楽	仙北吹奏楽団	仙北ふれあい文化センター	毎週 月・火・水・金・土
11	短歌	大仙短歌サークル	ほろひげアム	第1 土
12	短歌	仙北短歌同好会	南が公園児童会	不定期
13	日本舞踊	舞舞舞	市民センター	毎月 水・土
14	空手	仙北空手道連盟	月2回	金
15	民謡合唱	東仙郷さくら	仙北ふれあい文化センター	第1・3 土
16	民謡	大仙民謡同好会	大仙文化プラザ	第1・3 土
17	民謡	大仙民謡の会	ほろひげアム	第1 土
18	モダンダンス	セダンダンス研究会	仙北ふれあい文化センター	毎週 金
19	和太鼓	仙北太鼓・仙北太鼓ジュニア	仙北ふれあい文化センター	毎週 日
20	和太鼓	仙北太鼓	大仙公民館	毎週 日・水

➤ 調査の結果、中学生が参加可能な文化系クラブ活動は20団体あり、24名が参加していることが明らかになった。

今後の取組における課題

- 受入可能団体は20団体あるものの、実際に生徒が活動しているのは4団体にとどまっており、参加促進に向けた働きかけが必要である。
- 活動内容や活動日時が生徒のニーズと十分に合致しているかについて、さらなる分析・検証が求められる。
- 国のガイドラインに基づく「認定地域クラブ活動」と別枠で掲載しているため、制度の違いについて十分な説明が必要である。

課題への対応方針

- ✓ コーディネーターを中心に、未参加団体への働きかけや活動内容の見直し支援を行い、参加者の増加を図る。
- ✓ ニーズ調査結果と照合し、活動日時・内容の改善について各団体と協議を進める。
- ✓ 一覧掲載団体について、「認定地域クラブ活動」との位置付けの違いを明確に整理し、目的・要件・運営主体の違いを分かりやすく周知する。
- ✓ 定期的に一覧内容を更新し、継続的な情報発信体制を構築する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

1 体制整備および推進基盤の構築

- コーディネーターの配置
 - ・ 学校部活動の実態・ニーズ調査
 - ・ 学校施設使用状況調査
 - ・ 地域クラブ活動実施に向けた訪問調査
 - ・ 有識者会議「大仙市の音楽活動の在り方を考える会」の開催
 - ・ 兼職兼業アンケート結果を踏まえた教職員への聞き取り
 - ・ 指導員や受入可能団体の発掘・マッチング
- 「部活動地域展開ハンドブック」の改訂
- 推進体制（協議会・運営組織・事務局）の見直し
- 「認定地域クラブ活動」制度の構築準備

2 活動機会の充実と環境整備

- 一般団体・高校との合同実践の実施
- スポーツ・文化活動に関するニーズ調査の実施
- 「中学生が参加できる活動一覧」の作成および周知
- 「地域展開だより」による情報提供

●成果の評価

- コーディネーターの配置により、学校・地域・関係団体間の連絡調整機能が強化され、地域展開を推進する体制基盤が整備された。
- 2つの吹奏楽部に部活動指導員を配置するなど、人的体制の充実が図られた。
- 中学生を受け入れ可能な文化芸術団体が20団体に拡充し、地域資源の把握と可視化が進んだ。合同活動の実施により、生徒の意欲向上および技能向上につながる機会を創出した。
- ニーズ調査では約74%の児童が中学校での活動に意欲を示していることが明らかとなり、地域展開の必要性と方向性をデータにより確認した。
- 活動一覧の整備により、生徒・保護者が主体的に活動を選択できる情報基盤を構築した。
- 各種調査結果は、次年度以降の制度設計および施策検討の基礎資料として活用可能な知見となった。

●今後に向けて

- ✓ コーディネーター機能を強化し、地域人材の継続的発掘と育成を推進する。
- ✓ 部活動指導員の役割整理を行い、地域主体による運営体制への段階的移行を検討する。
- ✓ ニーズ調査結果を踏まえ、希望の多い活動分野から受け皿整備を優先的に進める。
- ✓ 活動内容や実施日時の改善について団体と協議し、参加促進を図る。
- ✓ 活動一覧については、「認定地域クラブ活動」との制度的な違いを明確に示し、閲覧者の誤認防止を図る。
- ✓ 推進体制および事務局機能の見直しを行い、持続可能な運営体制を構築する。

2.実証内容と成果

参考資料



「大いなる秋田大演奏会」での合同合唱



イベントに向けた高校生との合同練習



「史跡の里の秋まつり」での合同演奏



学校文化祭での合同演奏

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
実証事業の実施、
コーディネーターの
配置

ビジョン作成、
アンケート調査

令和6年

部活動実態調査、
施設開放状況調査

ハンドブック作成

令和7年

ニーズ調査、
地域クラブ活動
の周知

令和8年

認定地域クラブ
活動の整備

◆ ステークホルダー

教育指導課、生涯学習課、コーディネーター、
校長会、芸文協、県吹連、市P連、文化団体
児童生徒、保護者、教職員、部活動指導員

◆ 実施内容

- 部活動地域移行推進本部会議（3回開催）
- 部活動地域移行検討委員会（3回開催）
- 移行支援コーディネーター（2名配置）
- 部活動指導員（4名配置）
- 部活動地域移行ビジョン（推進計画）作成
- アンケート実施（児童生徒・保護者・教職員）



◆ ステークホルダー

教育指導課、生涯学習課、コーディネーター、
校長会、芸文協、県吹連、市P連、文化団体
児童生徒、保護者、教職員、部活動指導員

◆ 実施内容

- 部活動地域移行推進本部会議（3回開催）
- 部活動地域移行検討委員会（4回開催）
- 移行支援コーディネーター（2名配置）
- 部活動指導員（10名配置）
- 部活動地域移行ビジョン（推進計画）改訂
- ビジョン具現化のための行程表作成
- 地域移行ハンドブック（手引き）作成
- 地域移行だより発行（No.1）
- 部活動実態調査（小中学校）
- 地域クラブ活動アンケート（関係者等）
- 学校施設開放状況調査（小中学校）

◆ ステークホルダー

教育指導課、生涯学習課、コーディネーター、
校長会、芸文協、県吹連、市P連、文化団体
児童生徒、保護者、教職員、部活動指導員

◆ 実施内容

- 部活動地域移行推進本部会議（2回開催）
- 部活動地域移行検討委員会（4回開催）
- 移行支援コーディネーター（2名配置）
- 部活動指導員（11名配置）
- 部活動地域展開ビジョン（推進計画）改訂
- 地域展開ハンドブック（手引き）改訂
- 地域展開だより発行（No.2～5）
- 中学生が参加できる活動一覧作成・発行
- 部活動実態調査（小中学校）
- 学校施設開放状況調査（小中学校）
- ニーズ調査（小学校高学年児童）
- 兼職兼業アンケート（中学校教職員）
- 音楽活動の在り方を考える会（有識者）

3. 今後の方向性



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

「認定地域クラブ活動」による 休日の部活動地域展開のために	改革推進期間	改革実行期間（前期）				改革実行期間（後期）			
	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13		
	「認定地域クラブ活動」の導入と拡大								
	制度の構築			制度の運用		支援の拡大			
① 運営団体・実施主体の体制整備等								平日も含めた地域展開完了 部活動募集停止	
推進体制の整備 ・幅広い関係者による協議会等の設置 ・専門部署の設置やコーディネーターの配置	推進体制の見直し (協議会・運営組織・事務局)			休日の地域展開完了		新体制での推進			法人化の 検討
認定地域クラブ活動 ・持続的・安定的な活動機会の提供 ・国が示す認定要件等に基づき認定を実施 ・地域クラブから申請を受け、審査の上、認定 ・運営等への公的支援	認定制度の検討	認定制度の整備・試行				認定制度の運用			
運営に関するサポート体制の整備 ・運営に関する相談・助言等の窓口 ・会計・税務処理や労務管理、個人情報の取扱い、マネジメント等に関する研修機会の確保	相談窓口の整備		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ活動」への支援				
	各種マニュアル等の作成				サポート体制の運用		運営に関する研修の実施		
② 指導者の確保・育成									
多様な人材の発掘・マッチング・配置 ・部活動指導員の配置 ・教職員による兼職兼業の促進 ・県の人材バンクの活用 ・市の人材バンクの設置	部活動実態調査の実施・部活動指導員の配置			休日の地域展開完了		「認定地域クラブ指導者」への移行			
	兼職兼業アンケートの実施		兼職兼業に関わる研修会の実施			「認定地域クラブ指導者」への支援			
適切な資質・能力の保障、人材育成 ・研修会の実施 ・国における指導の手引き等の作成・普及 ・公認スポーツ指導者資格等の取得促進 ・指導者に対する適切な処遇の確保	指導者認定制度の 検討・整備	登録制度に関わる研修会の実施		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ指導者」への支援			
	指導者に対する支援（報酬・資格取得費用等）の検討		「認定地域クラブ指導者」への支援						
③ 活動場所・移動手段の確保									
活動場所の確保と管理運営の効率化 ・学校体育施設の活用促進 ・認定地域クラブ活動の優先利用 ・管理や予約の負担軽減	学校体育施設の 利用状況調査	支援（利用料減免・暖房費）・廃校舎活用の検討		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ活動」への支援と休日の優先利用			
	施設管理の効率化検討		効率的な施設管理の運用						
活動場所への移動手段の確保 ・スクールバスの有効活用 ・公共ライドシェアの活用	移動手段の検討		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ活動」への支援				
	移動手段の検討				「認定地域クラブ活動」への支援				
④ 安心・安全の確保									
事故や不適切行為の禁止 ・緊急対応マニュアルの作成	緊急対応マニュアルの作成			休日の地域展開完了		指導者・保護者・生徒等への研修の実施			
責任の所在の明確化 ・運営団体の賠償責任保険への加入 ・怪我の補償や個人賠償責任保険への加入	保険加入に関する支援の検討		「認定地域クラブ活動」への支援						
⑤ ニーズに合った地域クラブ活動の構築									
生徒等のニーズの把握・反映 ・多種多様な体験ができる環境の整備 ・児童・生徒・保護者へのアンケート調査の実施 ・生徒の地域クラブ活動の運営等への参画	意識調査の実施 (児童生徒・保護者・指導者)	合同部活動の推進・ニーズに合った環境の整備・生徒の運営への参画		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ活動」参加生徒への支援			
	経済的困窮世帯の生徒への支援（参加費等）の検討		「認定地域クラブ活動」参加生徒への支援						
参加促進のための情報提供 ・ホームページ等による一元的な情報提供 ・入学説明会等でのオリエンテーション	中学生受入れ可能団体の調査・一覧の作成と周知（「認定地域クラブ活動」を含む）・地域展開だよりの発行・子どもを対象としたオリエンテーションの実施		休日の地域展開完了		「認定地域クラブ活動」参加生徒への支援				
	中学生受入れ可能団体の調査・一覧の作成と周知（「認定地域クラブ活動」を含む）・地域展開だよりの発行・子どもを対象としたオリエンテーションの実施				「認定地域クラブ活動」参加生徒への支援				

